

使用済自動車用鉛蓄電池・リサイクルシステムの  
運用状況について

令和元年9月10日

一般社団法人鉛蓄電池再資源化協会

Lead Acid Storage Battery Recycle Association ( SBRA )

# 1. システムの概要

## (1) 対象範囲

○鉛蓄電池再資源化協会（以下、SBRA※<sup>1</sup>という）におけるリサイクルシステムの対象となる電池は、自動車（二輪車、農業機械、建設機械等を含む）の自動車用鉛蓄電池が使用済となったもの（以下、使用済バッテリーという）であって、排出事業者から廃棄物としてSBRAに処理を委託されたもの。

※1 SBRA：Lead Acid Storage Battery Recycle Associationの略称

## (2) いきさつ

○近年の輸入電池の増加等を背景として、国内電池メーカー及び輸入事業者が共同で、使用済バッテリーの回収・再資源化を行うためのセーフティネットとしシステムを構築。

○SBRAが廃棄物処理法の広域認定（産廃及び一廃）を取得。管理票情報システムによる処理の一括管理を実施。

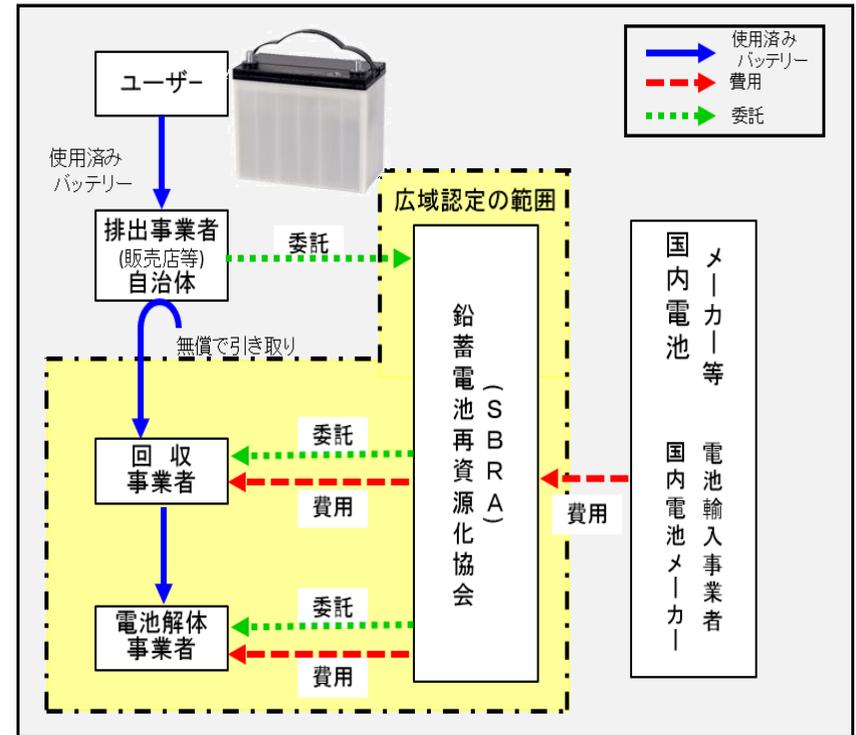
- ・平成24年4月10日 広域認定取得
- ・同年4月11日 限定運用開始
- ・同年7月21日 本格運用開始

## (3) 運用体制（平成31年3月末現在）

- ・参加メーカー等： 6社※<sup>2</sup>
- ・排出事業者： 10,406件
- ・回収事業者： 92社
- ・解体事業者： 14社

※<sup>2</sup> 国内電池メーカー： 4社

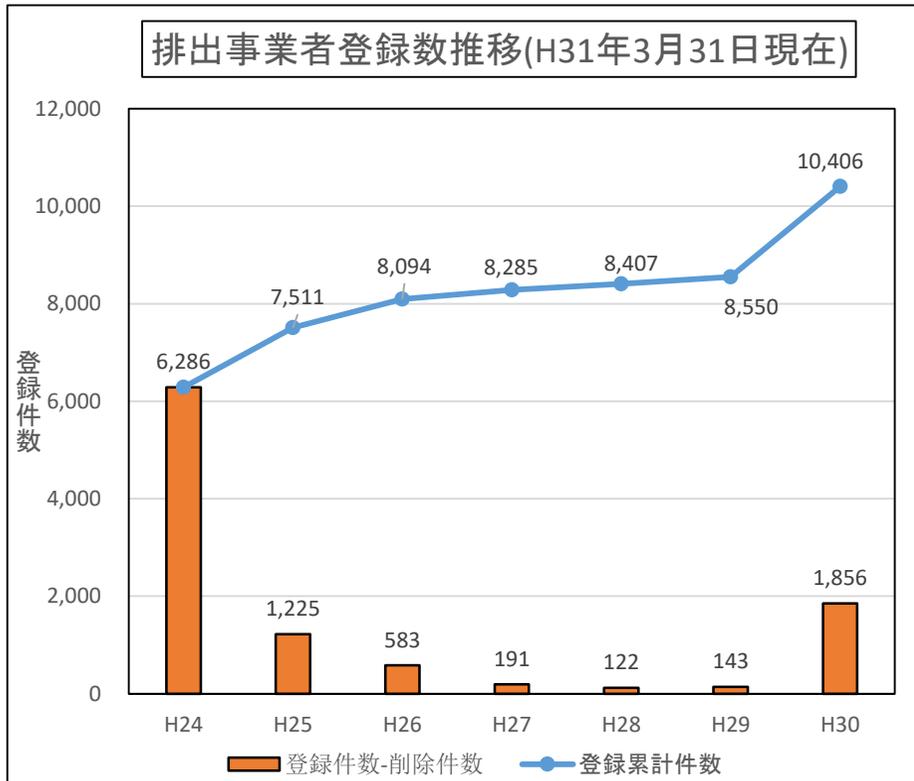
電池輸入事業者： 2社



## 2. 排出事業者の登録状況

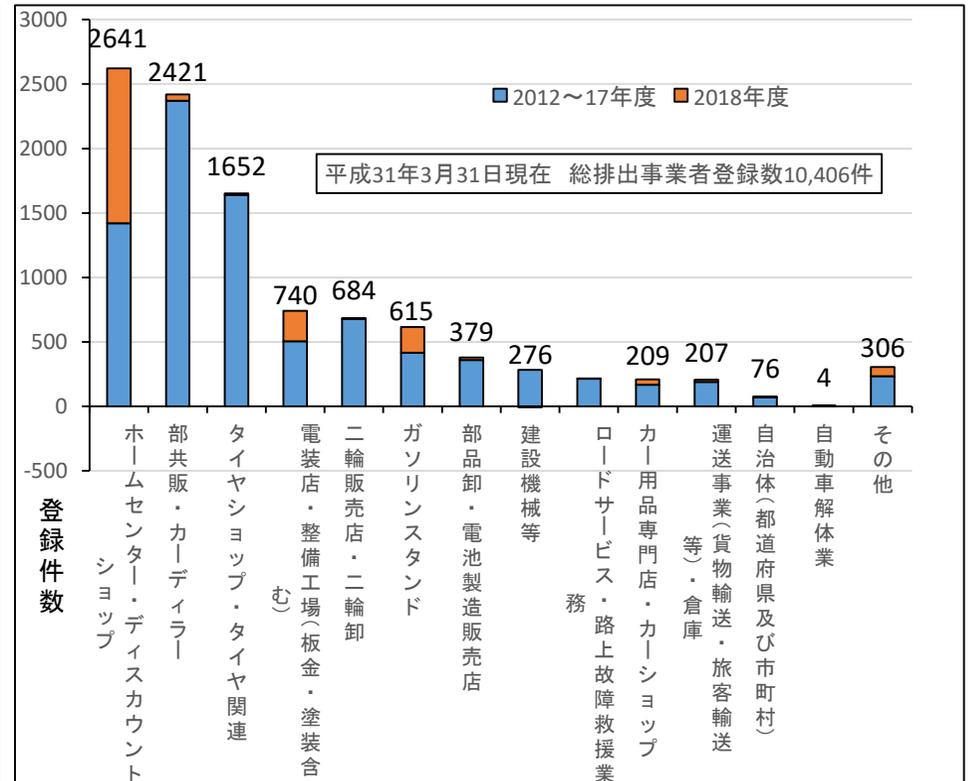
### (1) 排出事業者の登録数

- 排出事業者登録数は、H30年度末で10,406件。  
前年度から1,856件増加。



### (2) 業種別の登録数

- 業種別に見ると、部品共販・カーディーラー、  
タイヤショップ及びホームセンター等が上位。

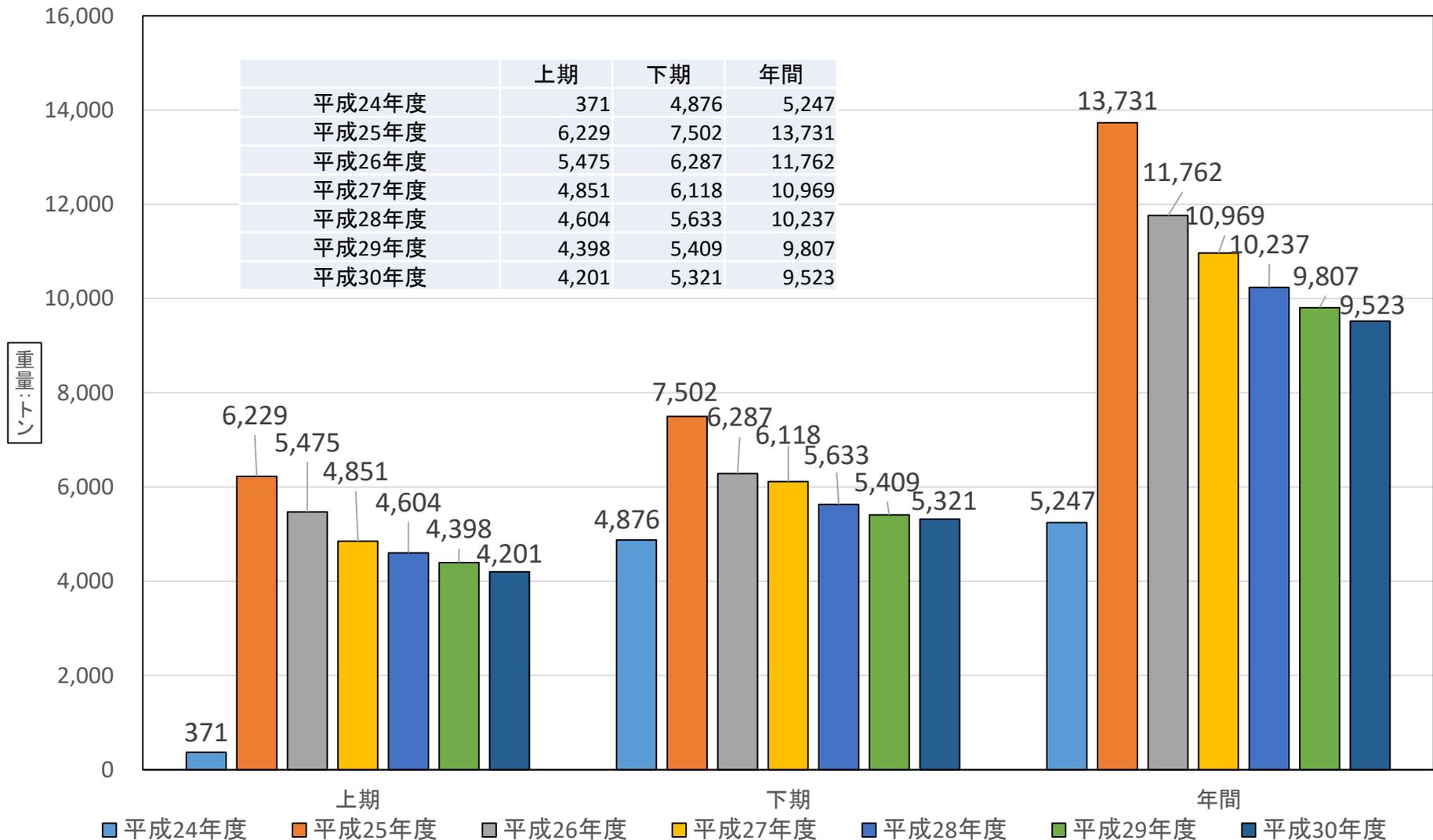


### 3. 運用実績(前年度との比較)

【SBRAにおける使用済バッテリーの処理実績】

項 目		平成29年度	平成30年度
① 排出事業者数	[件]	8,550	10,406
② 処理件数	[件]	27,275	25,427
③ 処理量	[電池 t]	9,807	9,522
④ 処理費用	[百万円]	416.5	410.1

# 4. 電池処理重量推移



## 5. 処理費用の負担について

○SBRAの処理費用は、SBRAが委託先に支払う回収輸送費と電池解体費である。また、これに加えて、SBRAの事業運営費(情報システムの開発・保守・運営費を含む)がある。これらの合計は、平成30年度実績で約5億円となっている。

※内訳は、回収輸送費が2億14百万円、電池解体費が1億95百万円、事業運営費が76百万円。

○こうした費用は、SBRAの会員電池メーカー等が、自動車用鉛蓄電池の前年度出荷販売量に応じて、毎月拠出している。

※前月に発生したSBRAの費用の実績に応じて、毎月拠出している。

○会員電池メーカー等における拠出費用確保の方法に関しては、会員電池メーカー等の個社判断としている。

## 6. 今後の取組み

○使用済バッテリーリサイクルをセーフティネットとして、安定して活動が継続できるように維持管理を行う。

(今後、改正バーゼル法の影響等による国内廃棄物市場変化に対応できるように引き続き市場を注視し、廃棄物処理法の広域認定に基づく適正処理を継続実施する)

○管理票情報システムの再構築を行う。

(将来の更なる運用効率化を見据えてシステムの見直し実施)

以上